

おおとり会だより

コロナ禍における「おおとり会」の今

会長 鈴木 明 美

(被服学科・大学二回生)



コロナ禍と向き合っており、長い時間が流れました。

会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。コロナ禍はまだ安んじています。六月の総会は、昨年度に引き続き今年度も縮小形式にて開催しました。また、秋の剣祭は三年ぶりのリアル開催となり、久々に学生や地域の家族連れでキャンパスの賑わいが戻りました。私達も「昔の遊びにチャレンジ！」のキャッチフレーズのもとで催しを提供し、お子さん達に楽しんでいただくことができました。剣祭中に開催された県立大学同窓会連合会の会合、ホームカミングデーには役員七名が参加し、各同窓会の現状や今後の活動について意見交換などをおこない、組織のメンバーとして動いています。

おおとり会基金につきましては、今年度も大勢の皆様から温かいご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。皆様に支えられての会であることを肝に銘じ、活動していきたいと思っております。

年々高齢化と会員減少の進む会ではありますが、会員相互の親睦を図るとともに、県立大学学生さん達の応援や地域貢献を果たしてまいります。今後共ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、尾池和夫学長先生、学生部長小林公子先生、小谷和之学生室長様には、常々ご理解・ご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

恩師の先生方、会員の皆様のご健康をお祈り申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。

おおとり会も「学生の応援団に」

『学生ボランティアセンター』（大学公式委員会であり、令和三年度おおとり会賞受賞団体）と、おおとり会との出会いは、昨年四月に行われた『開学記念行事』の折、彼らが困窮した学生たちの現状を訴え、同窓会にも援助を、と声を上げた時でした。

早速おおとり会では、この『学生ボランティアセンター』と『学生助けたいんじゃー』（大学生活を続けることが大変な学生を応援するチーム）の学生さん達を総会に招き、コロナ禍での県大生の実態と、彼らの活動を発表してもらいました。

コロナウイルスの感染が深刻だった時期は、バイトができず経済的に困窮した学生は食生活にまで悪影響が出ました。また大学外で実習が必要な学生は、一定期間自宅待機となり、バイト収入が得られないまま、実習先への交通費が負担となったそうです。国から支給される給付金は一時的なものであり、継続した支援がなによりも重要だと痛感させられました。

そんな困窮した学生を支援するために、大学でも緊急支援プロジェクトを立ち上げました。そのプロジェクトの一環として始まったのが「たべものカフェ」です。毎月2回、大学構内で食料を支給する。その運営を『学生ボランティアセンター』が担っています。カフェの運営には毎月八〜十万円が必要となり、その資金調達のため、昨年九月にはJR静岡駅北口の地下広場で募金活動も行われ、静岡新聞でも取り上げられました。

刻々と変化するコロナ禍の中、ロシアのウクライナ侵攻による経済的な影響も加わって学生たちの学ぶ環境が憂慮されます。彼らの学ぶ権利が脅かされないように、私たち同窓会も応援していきましょう。

詳細は

学生ボランティアセンター Twitter

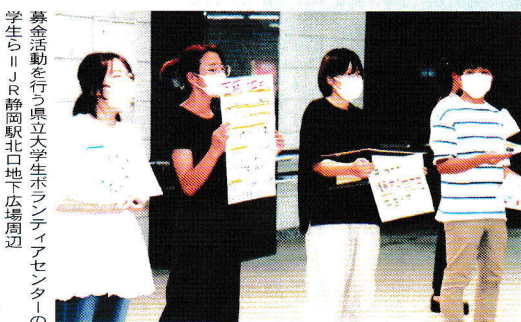


☆連絡先 静岡県立大学学生ボランティアセンター
Twitter : @shizubora
Instagram : @shizu_bora
Gmail : pre.volunteercenter@gmail.com

支援を希望される方は、『おおぞら基金』へ寄付をお願い致します。

振込先は 郵便局 口座名：静岡県立大学法人
口座記号番号：00820 2 154381

※通信欄に、寄付の用途として「学生支援 たべものカフェ」と必ず記入してください。



募金活動を行う県立大学学生ボランティアセンターの学生ら（JR静岡駅北口地下広場周辺）

輝く女性シリーズ

VIII



『芭蕉布』に魅せられて

平良 美恵子

英文学科(大学二回生)

令和四年は、『沖繩の本土復帰五十年』という節目の年にあたり、様々な視点から『沖繩』が注目されました。NHKの朝の連続テレビ小説『ちむどんどん』も話題となり、沖繩独特の文化や歴史、生活が伝えられました。

その中で、芭蕉布制作者証の担当としてお名前が登場した『平良美恵子』さんは、私たち静岡女子大学の卒業生です。

お義母様は、沖繩を代表する織物『芭蕉布』の復興と発展

に尽力された人間国宝の『平良敏子』さん。残念なことに昨年(令和四年)九月十三日に、一〇一歳で天寿を全うされました。平良美恵子さんは、国の重要無形文化財の総合指定(一九七四年)を受けた『喜如嘉の芭蕉布』の工房を継承されています。

今回、平良さんには、芭蕉布に関する興味深いお話を紹介していただくと共に、ご自身の芭蕉布への熱い思いを綴っていただきました。



一六一〇年、駿府城の徳川家康公に、琉球の芭蕉布が五十反献上されました。献上品は五品目で古酒や琉球漆器三種類、そして布は芭蕉布でした。

芭蕉布はその後も次々献上され、十八回の江戸上りの度におよそ一〇〇〇反近くの芭蕉布が動いたと云われています。大変珍重された布で、軽くて涼しく本州では袴や火事羽織り、陣羽織にも使われたようです。沖繩では身分の上下を問わず常用されていました。最近

大井川葛布の方より、藍染の直垂が送られてきました。どうも芭蕉布らしいと思うが如何なものかという事で、ある所で鑑定依頼してもらっています。一体どこで作られた芭蕉布なのか、その辺が難しいのですが、製造された分布地には謎が一杯あります。特に直垂は珍しくないかなか見る機会がありません。素晴らしい芭蕉布が海外に残っており、ワシントンDCの Smithsonianのある場所で、285gの「黒朝」を見た時は驚嘆しました。倉庫の中にひっそりと眠っている布を見て、この布はさぞ琉球に帰

りたいことだろうと思った次第です。布作りに従事しているので、作り手の思いが伝わってくるような一瞬でした。紅型の布や漆器などあったのですが、なぜそこにあるのか琉球から来た事以外内容も分かっていないようでした。オランダのシーボルト記念館にも芭蕉布が残されています。シーボルトが沖繩に来たことはないで薩摩藩から手に入れたものと思われます。ドイツの民俗博物館(只今休館中)にも極上の芭蕉布がありリスト化されています。そういえば葛飾北斎は琉球八景という浮世絵を描いています。タネ本があるようで、なんと富士山までしっかりと見えるのです。小田原のお寺に芭蕉布の僧侶の衣があるということですが、拝見したことはありません。とにかく静岡の至るところに琉球との交流があり、関係者の御墓があったり楽器が残っていたりします。



芭蕉布

駿府城公園の一隅で、芭蕉布展を二回いたしました。巽櫓の上で芭蕉布を着て琉球舞踊を披露し、コロナ禍の中で首里城内の県立芸大の教授の方々とzoomの中で説明したりしました。実は芭蕉の芯の部分は、絵巻のこと・・・紅葉山庭園のお茶室の中で限定のお菓子(芭蕉の芯を粉にした)をご披露しました。



糸芭蕉

喜如嘉の芭蕉布保存会では芭蕉布を作る技術を伝承して継承するだけでなく昔の芭蕉布が他府県に残っていないか調べたり、何に使われていたか文献を探したり、外国の美術館・博物館に似たような布の在庫がないか調べたりとか、いろいろな事にアンテナをはっています。パソコンが本当に役に立っておりますが、現物のリストアップや古いものの維持管理、補修に中々手間取っています。博物館のような現存主義ではなく、その

芭蕉布があくまでも美しくきれいな状態で見てもらいたいのです。布をほどいて洗い、似たような状態の縫い方で縫ってもらっています。

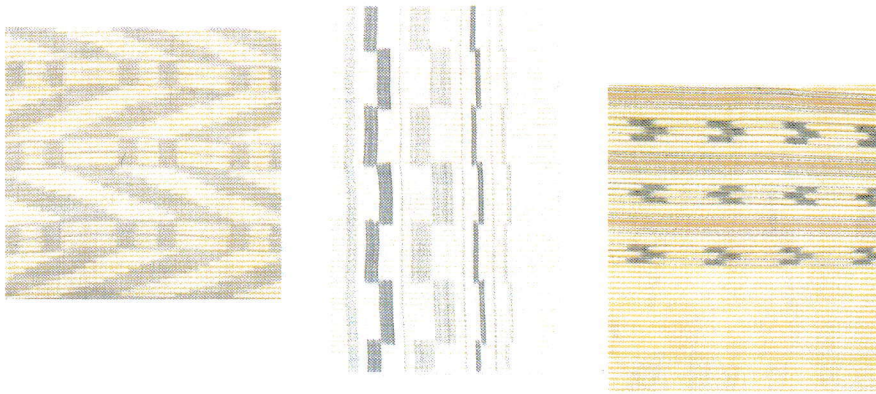
新しい布を縫うのではなく、裏返し、穴あきの補修幅出しや丈出し、「私は一級和裁技能士よ、下手な縫い方はしたくないわよ」と言われたりしましたが、女学校も出ていない田舎の母親が夜なべに縫った縫い方をお願いしたりしています。神女の着ていた胸衣裾の芭蕉布の無地を縫って文化庁に納めたりしました。

琉服という、和服と少々違う型の世界があり、安土桃山時代の女性の着物や能装束となんとなく近いものがあります。

韓国や中国大陸文化の衣類が、どのように入ってきたのかという衣服の世界は大変興味深く、私の住む喜如嘉は十七世紀の「おもしろそうし」の中で「ぎとかさ」と記されていたことが解っています。そういえば山梨県に「芭蕉天神」と呼ばれる神社があり、能の一曲に芭蕉が題材になったものがあります。

芹沢銈介先生も題材として芭蕉布をよく使っており、記念館には楳布と並んで芭蕉布がでて参ります。先生が最後に注文された芭蕉布は、紅型作家、藤村玲子さん経由で、茶色地の無地でした。シャリンバイで糸染した芭蕉布で、結局何に使われたか解っておりません。記念館で学芸員の方に伺ってみました不明とのこと、芭蕉布の番匠柄の着尺が収蔵されていることが判明、仕立ててみなさんの目に触れることがあればよいのにとおっしゃっています。同じシャリンバイで染めた布は、澤地久枝さんもお持ちでしたが、夏は着物は卒業といわれ布が帰って参りました。大倉集古館の展示会では、仕立て返した「赤染コーザー」として皆さんの前に出ておりました。布は様々な表情をして一生を送ります。

最後に木綿往生の話させてください。外村吉之介先生の受け売りですが、「木綿は人に優しく、最後は雑巾(浄巾)として仕え、役割を終わる。人の生き方そのものである。」虎は死んで皮を残し、人は死んで名を残すと云いますが、死んで名を残さず、虎のように良い皮「仕事」を残したいとひそかに希っていると書かれています。芭蕉布も木綿と同じく最後は使い古して柔らかくなり、おむつになったと聞いております。これからも芭蕉布作りに精進したいと願っております。



※令和五年九月に京都・大阪で芭蕉布展を開催する予定です。

詳しくは、おおきみそんりつばしょうふかいかん大宜味村立芭蕉布会館のホームページをご覧ください。

<https://www.okinawastory.jp/spot/20020200> (外部サイト)

令和四年度総会報告

令和四年六月十二日(日)アイセル21において、おおとり会総会が開催されました。

コロナ禍ではありませんが、昨年度同様、議事の報告、承認を中心とし、同窓生のみで感染対策を講じた上での実施となりました。

会場はアイセル内のアトリエでしたので、作業テーブルを囲んでの会となりましたが、鈴木明美会長の心遣いで花が飾られ、明るい雰囲気の中で和やかに会が進行しました。

第一部では、令和三年度事業報告・会計報告及び会計監査報告があり、続いて今年度の事業計画案・予算案が提案され審議いたしました。いずれも、賛成多数により可決承認されました。

今年度の「おおとり会賞」受賞団体については、いずれも甲乙付け難い活躍で、硬式テニス部、学生ボランティアセンター、放送研究会の三団体が受賞したとの報告がありました。

特に、学生ボランティアセンターについては、コロナ禍で修学に困難な学生のために様々な活動を行っていること

が披露されました。

県大同窓会連合会については、独自に活動していた県立大学の七つの学部同窓会を「お互いを繋ぐ連合組織に」という協議が令和元年度以来続けられ、令和三年十一月二十四日、正式に発足式が開かれたことが報告されました。

第二部では、先に述べた「おおとり会賞」受賞団体の学生ボランティアセンターと、「学生助け



令和四年おおとり会総会
第一部 総会
一 同会の報告
一 会長挨拶
一 事業報告
一 会計監査報告
一 今年度の事業計画案・予算案の提案
一 審議
一 可決承認
一 表彰
一 閉会

たいんじやー」(厳しい生活の学生を応援するチーム)の学生さんからお話をうかがい、質疑応答や意見交換を行いました。

コロナ禍での学生の現状や、その中で「たべものカフェ」などを通して助け合う姿などを説明していただき、今の学生たちの置かれている状況を自らが改善して行こうとする姿勢に敬意を感じずにはいられませんでした。



まだまだ予断が許されない状況にもかかわらず、総会にご参加くださいました皆様には心よりお礼申し上げます。来年度こそは、多くの皆様が集える会となりますよう心より願っております。

松永博子
(被服学科
大学九回生)



静岡県立大学 同窓会連合会

●令和四年四月二十日(開学記念日)テーマ

「絆」同窓会連合会に寄せて
開学記念行事シンポジウム開催

●令和四年十月二十九日(剣祭初日)
『ホームカミングデー』開催
卒業生・同窓会の活動状況の
情報交換



令和四年十月二十九日
ホームカミングデー参加者
県大看護学部棟にて



はばたき寄金

令和三年度の『おおとり会賞』は下記の三団体が選出され、令和四年四月二十日に行われた開学記念行事において、おおとり会から表彰されました。

硬式テニス部

この度は素晴らしい賞を受賞させていただき大変嬉しく思います。
硬式テニス部の部員は初心者から上級者まで幅広く在籍しており、各々が目標を持って練習に取り組んでいます。

また、テニスをすることはもちろんですが、テニスを通じてコミュニケーションをとることや、学校主催のイベントへの参加も積極的に行っています。

放送研究会

毎月ラジオ番組を作成し、エフエムしみず様にて放送させていただいています。また、校内への新型コロナウイルス注意喚起放送や、草薙商店街のアナウンスなど、ご依頼をいただいていた様々な声を使った活動を行わせていただいています。

早くコロナが収束し、今後は注意喚起放送から学内行事などの司会に活動が移ることを心から祈っています。

おおとり会賞の受賞を部員一同誇りに思っております。より一層活動に励みます。

学生ボランティアセンター

私たちは「頼り頼られる関係を社会の中にくさつくります」というミッションを掲げて活動をしています。

活動内容は、ボランティア情報の発信、他団体との繋がりを作る中間支援や学生の居場所づくりをしております。たべものカフェ等を通して学生の居場所づくりを目指してまいります。

おおとり会賞に選んでいただいたことを感謝しております。



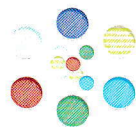
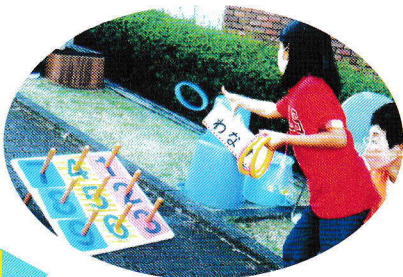
剣祭 昔の遊びにチャレンジ

Part III

令和四年十月二十九日・三十日、県立大学で三年ぶりとなる剣祭が開催されました。学生も私たちもコロナウイルス感染予防に万全を尽くし、おおとり会では、前回好評だった『昔の遊びにチャレンジ Part III』を、二十九日に行いました。今回は『スーパースポールすくい』のコーナーが新たに設けられ、子供たちに大好評でした。『輪投げ』『おり紙』『おはじき』『豆つかみ』等、最近では馴染みの少ない素朴な遊びに、100人近くの子供たちが参加し、親子揃って楽しんで頂けました。

そしてこのイベントに携わったスタッフが皆、小さい子供たちと接してとても楽しかったと感想を寄せてくれました。また、学生達も親切に対応してくれて、久しぶりに母校が身近に感じられたという声もありました。

会員の皆様、次回はぜひ剣祭のイベントにお手伝いの手を貸して頂き、一緒に楽しいひと時を過ごしませんか？



令和3年度 決算報告書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

総収入 6,121,573円 総支出 1,010,938円 残高 5,110,635円(繰越金)

(単位：円)

収入の部					支出の部				
費目	予算額	決算額	増減	備考	費目	予算額	決算額	増減	備考
預金利息	2,000	337	-1,663	定額郵貯・通常郵貯	事業費	200,000	327,592	127,592	総会、はばたき基金
基金入金	50,000	62,884	12,884	9名	会議費	150,000	45,544	-104,456	役員会、理事会、会報編集会議等
剣祭収益金	0	0	0		印刷費	20,000	2,950	-17,050	会議用資料、総会資料
					通信費	20,000	5,916	-14,084	会議通知、連絡等
					慶弔費	50,000	5,000	-45,000	
					事務雑費	20,000	330	-19,670	文具
					ササキデザイン社	220,000	181,280	-38,720	会報、総会案内印刷
					株サラト	600,000	442,326	-157,674	会報・総会案内発送業務、メンテ契約料
					予備費	80,000	0	-80,000	
小計	52,000	63,221	11,221		小計	1,360,000	1,010,938	-349,062	
前年度繰越金	6,058,352	6,058,352	0		次年度繰越金	4,750,352	5,110,635	360,283	
合計	6,110,352	6,121,573	11,221		合計	6,110,352	6,121,573	11,221	

上記のとおり報告致します。

令和4年3月31日

会長/鈴木明美

会計/井上明子・大倉一美

監査の結果、相違なく適正と認めます。 令和4年4月17日

会計監査/森田光江・三浦育美

令和4年度 予算

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

総収入 5,611,635円 総支出 5,611,635円 残高 0円

(単位：円)

収入の部					支出の部				
費目	4年度予算額	3年度予算額	増減	備考	費目	4年度予算額	3年度予算額	増減	備考
預金利息	1,000	2,000	-1,000	定額郵貯・通常郵貯	事業費	200,000	200,000	0	総会、剣祭
基金入金	500,000	50,000	450,000		会議費	150,000	150,000	0	役員会、理事会、各委員会
剣祭収益金	0	0	0		印刷費	20,000	20,000	0	会議用資料、総会資料印刷
					通信費	20,000	20,000	0	会議通知、連絡等
					慶弔費	50,000	50,000	0	弔電、香典、記念品等
					事務雑費	20,000	20,000	0	文具等
					ササキデザイン社	220,000	220,000	0	会報、総会案内印刷
					株サラト	600,000	600,000	0	会報・総会案内発送、メンテ管理料
					予備費	80,000	80,000	0	
前年度繰越金	5,110,635	6,058,352	-947,717		次年度繰越金	4,251,635	4,750,352	-498,717	
合計	5,611,635	6,110,352	-498,717		合計	5,611,635	6,110,352	-498,717	

*他費目への流用を認める

前年度繰越金内訳 (郵貯定額貯金 4,181,532円) + (郵貯通常貯金 929,103円) = (合計 5,110,635円)

住所変更および住居表示変更の場合は下記の名簿係またはクラス幹事までご連絡ください。
尚、クラス幹事は変更内容を各科の名簿係にお知らせください。変更はホームページ上でも受け付けております。

おとり会名簿変更についてのおお願い

- ★国文学科 萩倉あおい
- ★英文学科 瀧 智子
- ★食物学科 赤堀美里
- ★被服学科 長田直子

編集委員

石田加苗・岩崎たか江
加藤久江・森 恵美



おとり会 ホームページへ ようこそ!

おとり会の最近の情報を掲載しています。静岡県立大学のホームページからもアクセスできます。ぜひ、ご覧下さい。

★アドレス

<https://dousoukai.site/ootorikaihp/>

計報

令和三年十二月二十五日 寂

静岡県立大学教授

(元静岡女子大学国文学科教授)

原口 裕先生(八十八才)

令和四年十一月十七日 寂

静岡県立大学助教授

(元静岡女子大学食物学科助教授)

詩田 和子先生(九十三才)

御冥福を心からお祈り申し上げます。